

## 業績ハイライト

当期は、売上高は前期比 19% 増加の 18 億円となりました。セグメント利益は、タイの火力発電所の定期検査や円高進行による為替差損等の影響により持分法投資利益が減少したことから、前期比 22% 減少の 50 億円となりました。

## 事業の概要

J-POWERグループは、1960年より「海外コンサルティング事業」に取り組み、以来、世界各国で長年にわたり、環境影響評価、石炭火力発電における脱硫・脱硝技術移転、水力・送变电における計画・設計・施行監理などのコンサルティング事業を実施してきました。

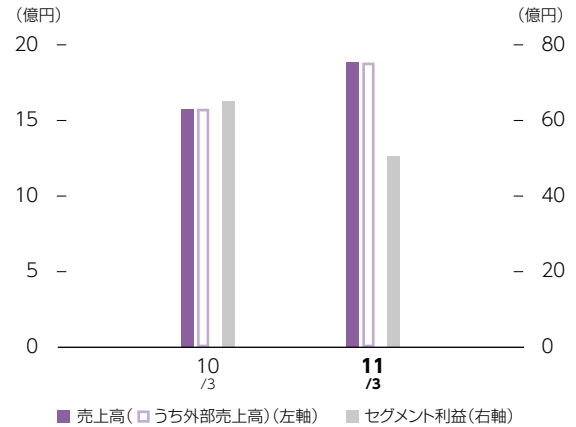
その後、1997年に、世界的な電気事業の自由化が進行する中、産業・民需両面で引き続き旺盛な電力需要の増加が見込まれる海外市場に展開するべく、社内に専門組織を設置して、資本や技術を投入して事業参画を行う「海外発電事業」への取り組みを開始しました。

開始当初は、比較的小規模な出資と発電所の建設あるいは操業等への部分的関与をベースとした共同事業の形での参画が中心でした。厳しい競争環境の中、着実に経験と実績を積み重ね、2005年には米国に現地法人を設立し、同国で本格的な事業展開を開始しました。また2008年にはタイで大型のIPP事業への参加を果たしました。こうした段階的な取り組みを通じて、現在では、タイ、米国、中国、台湾、フィリピンなど6カ国/地域で29件、369万kW（持分出力）の発電設備を運転しており、J-POWERグループ経営の「第2の柱」として取り組みを進めています。

## 事業の見通し

新規の発電プロジェクトとして、タイにおいて、現在2地点（ノンセン地点およびウタイ地点）でのIPP事業（各160万kW）と7地点でのSPP事業（合計78万kW）、合計9地点、総出力398万kWの開発を進めています。SPP事業7地点はいずれも2013年、IPP事業2地点はそれぞれ2014、2015年の運転開始予定です。タイ電力公社（EGAT）との間で25年の長期売電契約（PPA）を締結し、発電所の建設から、その後の運転・保守を行います。

## セグメント売上高／セグメント利益\*



\*セグメント利益は経常利益を表示しています。

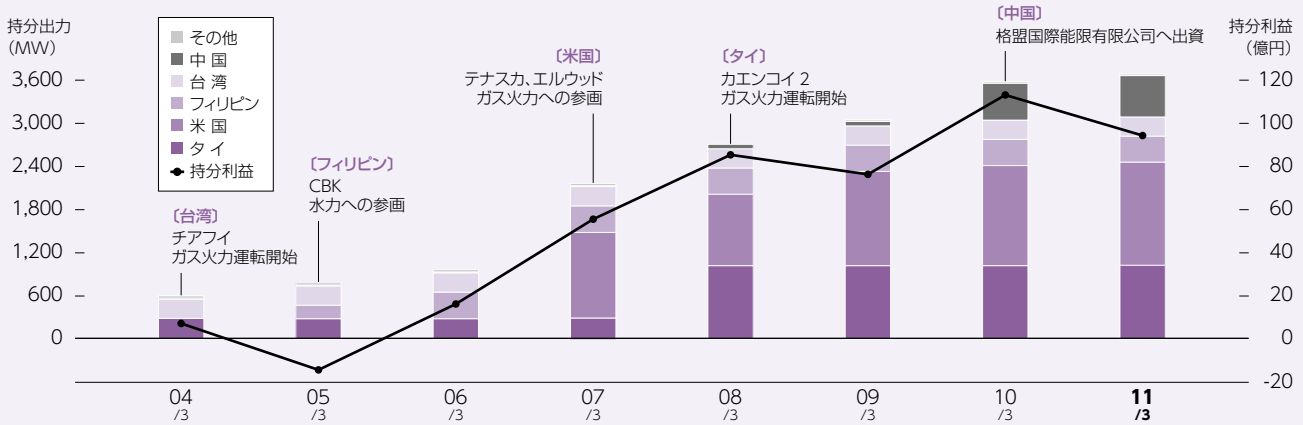
2011年、J-POWERは他社と共同で、インドネシアでの新規石炭火力IPP案件を国際入札により獲得しました。本プロジェクトは中部ジャワ州に出力200万kWの石炭火力発電所を建設するアジア最大規模のIPP事業で、インドネシア国有電力会社（PLN）との間で25年間の長期売電契約（PPA）を締結しています。本プロジェクトでは、当社が培った超々臨界圧発電技術（USC）を適用し、建設・運転・保守までをパッケージとして総合的に取り組みます。同国の電力安定供給と環境負荷の軽減、そして先進的技術の移転・普及に貢献することが期待でき、今後のアジアにおける高効率石炭火力展開のモデルになりうるものと考えています。



カエンコイ2発電所（タイ）

# セグメント別事業概況

## 海外発電事業の持分出力(運転中)\*と持分法投資損益の推移



\*持分出力(左軸)：プロジェクトの総出力に当社出資比率(持分比率)を乗じた出力であり、年度末の数値を計上。

## プロジェクト概況

(2011年6月末現在)

**2013年** 種別：ガス火力  
 運転開始 出力：780MW (110MW×6件・120MW×1件)

**SPP (7件)** 建設工事 → 営業運転

現況

- 2010年10月から建設工事に順次着工。
- 2013年の運転開始に向け、順調に建設工事を実施中。

- タイのSPPプログラムに基づくプロジェクト。
- サラブリ県他で工業団地やその近傍に10万kW級のガス火力を7地点で建設。
- 運転開始後は、25年間にわたりタイ電力会社および工業団地内の顧客に電気を販売(工業団地顧客には蒸気も供給)。

**2014年** 種別：ガス火力  
 運転開始 出力：1,600MW

**ノンセン地点** 建設工事 → 営業運転

現況

- 2011年度中の本格着工を目指し準備中。

- 2007年のタイ電力開発計画に基づく入札において落札したIPPプロジェクト。
- サラブリ県ノンセン郡とアユタヤ県ウタイ郡にて、それぞれ160万kWのガス火力を建設。
- 運転開始後は、25年間にわたりタイ電力会社に電気を販売。
- ウタイ地点については、当初予定していたサメッタイ地点から開発地点を変更。

**2015年** 種別：ガス火力  
 運転開始 出力：1,600MW

**ウタイ地点(旧サメッタイ地点)** 建設工事 → 営業運転

現況

- 2012年度の着工を目指し準備中。

## 海外発電事業 プロジェクト一覧

(2011年6月末現在)

状況	プロジェクト名	発電形態	設備出力 (MW)	当社出資 比率	権益取得 時期	売電先	売電契約 期間
<b>タイ</b>							
運転中	ロイエット	バイオマス(モミ殻)	10	24.7%	2000年度	タイ電力公社	21年間
	ラヨン	ガス火力(コンバインドサイクル)*1	112	20.0%	2000年度	タイ電力公社/工業団地内企業	21年間
	タイオイルパワー	ガス火力(コンバインドサイクル)*1	113	19.0%	2001年度	タイ電力公社/タイオイル他	25年間
	インデペンデントパワー	ガス火力(コンバインドサイクル)	700	10.6%	2001年度	タイ電力公社	25年間
	ガルフ・コジエネ(カエンコイ)	ガス火力(コンバインドサイクル)*1	110	49.0%	2001年度	タイ電力公社/工業団地内企業	21年間
	サムットプラカン	ガス火力(コンバインドサイクル)*1	117	49.0%	2002年度	タイ電力公社/工業団地内企業	21年間
	ノン・ケー	ガス火力(コンバインドサイクル)*1	120	49.0%	2002年度	タイ電力公社/工業団地内企業	21年間
	ヤラ	バイオマス(ゴム木廃材)	20	49.0%	2003年度	タイ電力公社	25年間
	カエンコイ2	ガス火力(コンバインドサイクル)	1,468	49.0%	2004年度	タイ電力公社	25年間
<b>小計 9件</b>			<b>2,770 (当社持分 1,020MW)</b>				
建設中	SPPプロジェクト(7件)	ガス火力(コンバインドサイクル)*1	合計 780	メジャーを保持する予定	2007年度	タイ電力公社/工業団地内企業	25年間
計画中	ウタイ(旧サメッタイ)	ガス火力(コンバインドサイクル)	1,600	メジャーを保持する予定	2007年度	タイ電力公社	25年間
	ノンセン	ガス火力(コンバインドサイクル)	1,600	メジャーを保持する予定	2007年度	タイ電力公社	25年間
*1 電気とともに、発電によって発生した排熱を有効利用するコジエネレーション設備。							
<b>中国</b>							
運転中	天石	低品位炭・ボタ火力	50	24.0%	2000年度	山西省電力公司	1年更新*3
	漢江(喜河・蜀河)	水力	450	27.0%	2007年度	陝西省電力公司	1年更新*3
	格盟*2	主に石炭火力	4,446	7.0%	2009年度	山西省電力公司	—
	新昌	石炭火力	1,320	10.0%	2007年度	江西省電力公司	1年更新*3
<b>小計 5件</b>			<b>6,266 (当社持分 578MW)</b>				
*2 格盟国際能限有限公司は、発電会社11社を保有する電力会社。							
*3 電力売買契約は1年更新であるものの、売電先である省レベルの送配電会社と別途締結する「送電網接続管理協議書」により、原則として運転期間中の継続的な売電を契約。							
<b>米国</b>							
運転中	テナスカ・フロンティア	ガス火力(コンバインドサイクル)	830	31.0%	2006年度	Exelon Generation Company, LLC	20年間
	エルウッド・エナジー	ガス火力(シンプルサイクル)	1,350	25.0%	2006年度	Exelon Generation Company, LLC/Constellation	2012年/2016年/2017年まで
	グリーン・カントリー	ガス火力(コンバインドサイクル)	795	50.0%	2007年度	Exelon Generation Company, LLC	20年間
	バーチウッド	石炭火力	242	50.0%	2008年度	Virginia Electric and Power Company	25年間
	バインローン	ガス火力(コンバインドサイクル)	80	50.0%	2008年度	Long Island Power Authority	2025年まで
	エクス	ガス火力(シンプルサイクル)	48	50.0%	2008年度	Long Island Power Authority	2017年まで
	フルヴァナ	ガス火力(コンバインドサイクル)	885	15.0%	2008年度	Shell Energy North America	2024年まで
	エッジウッド	ガス火力(シンプルサイクル)	80	50.0%	2009年度	Long Island Power Authority	2018年まで
	ショーハム	ジェット燃料火力(シンプルサイクル)	80	50.0%	2009年度	Long Island Power Authority	2017年まで
	オレンジ・グローブ*4	ガス火力(シンプルサイクル)	96	50.0%	2006年度	San Diego Gas & Electric	25年間
<b>小計 10件</b>			<b>4,486 (当社持分 1,438MW)</b>				
*4 オレンジ・グローブ地点については、2011年5月1日に当社持分比率を100%から50%に変更しています。							
<b>その他の国/地域</b>							
運転中	CBK(フィリピン) (3件)	水力	728	50.0%	2004年度	フィリピン電力公社	25年間
	嘉恵(台湾)	ガス火力(コンバインドサイクル)	670	40.0%	2002年度	台湾電力	25年間
	ザヤツコボ(ポーランド)	風力	48	45.0%	2006年度	ENERGA社	15年間
<b>小計 5件</b>			<b>1,446 (当社持分 653MW)</b>				
建設中	ニョンチャック2 (ベトナム)*5	ガス火力(コンバインドサイクル)	750	5.0%	2008年度	国営ベトナム電力総公社	
*5 2010年よりシンプルサイクル(500MW)で運転中。コンバインドサイクル(750MW)での本格運転開始は2011年中を予定しています。							